



同志社創立135周年記念 ● 岩波文庫、2010年10月15日刊行

岩波文庫から『新島襄の手紙』の続編が出ました。5年前の同志社創立130周年記念出版に引き続き、今回は創立135周年事業の一環として出版されました。大谷實同志社総長を委員長として、4人の同志社関係者が編集委員会を構成しました。

先の『新島襄の手紙』には、新島の生涯を知るのに不可欠の手紙を96通、収録しました。いずれも、『新島襄全集』にある原書簡の格調を損なわず、しかも読みやすい工夫をいくつか施しました。それに対して、今回の文庫は、同じく全集から新島自身の文章を41編抽出し、教育、宗教、文明の3部構成にしました。

いずれも、教育者であると同時に宗教者（牧師、宣教師）でもあった新島の思想と信仰をもっともよく表わす文章です。独立した著作を一冊も残さなかった新島を知るには、最

新島襄 教育宗教論集

同志社編



同志社創立135周年記念出版

■ 106 ●
岩波文庫

定価900円（税込）

同志社編
『新島襄 教育宗教論集』
が出ました。

本井 康博
大学神学部教授

適の論集です。現代表記にするために、原文に手を加え、読みやすさをはかった点や、資料一点ずつに編者による解題を付したのは、前作と同じです。同一委員による『同志社編』である点も、共通いたします。

ただ、残念ながら今回は、紙幅と内容の点で収録を見送った資料が、何点か出ました。「私の青春時代」や「脱国の理由書」といった自伝的手記や、「函館紀行」のような紀行文、それにイタリア（トレ・ペリチェ）での珠玉のエッセイなどです。

将来、それらを一本にまとめ、たとえば『新島襄の文集』（仮称）として岩波文庫に組み入れることが、編者一同の夢です。それが実現すれば、新島の主要な資料が「3部作」としてひとまず完結します。新島の文章が広く読まれる環境が、いっそう整備されることとなります。

同志社女子大学写真コンテスト「SEITONフォトコン」

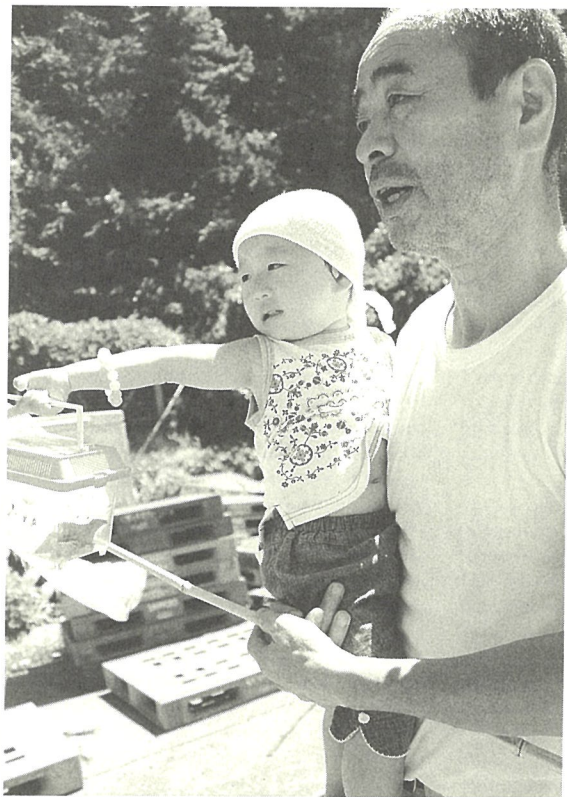
2010年5月10日～9月3日までの約4カ月にわたり、女子高校生を対象に「Live」をテーマに撮影した作品を募集。3回目となる今回も全国各地より280点もの作品が寄せられた。

審査委員会では、写真界で活躍されている中田昭氏をアドバイザーとして迎え、審査を実施。厳正な審査の結果、最優秀賞1作品、優秀賞7作品、入選16作品、学校法人同志社理事長および同志社女子大学長による特別審査員賞2作品を選出。最優秀賞には大阪市立工芸高等学校1年 岩本彩香さんの「じーじ!あっち!」が選ばれた。

今回の応募テーマは「Live」。多様な読み方や解釈のとれるテーマのもと、学校生活、あるいは学校外のさまざまなシーンでの「ライブ」を切り取った作品、あるいは「ライブ」ととらえたセンシティブな感性や心の情景を映し出す作品、また「Love」をとりこんだユ

ニークな作品など、幅広い高校生らしい新鮮で躍動感あふれる作品が寄せられた。

女子大学京田辺キャンパス友和館ヒバードホール2階にて2011年9月30日まで入賞作品を展示する。



最優秀賞「じーじ!あっち!」

同志社のキリスト教が理解できる「会衆主義教会」パンフレット

大学神学部教授 水谷 誠

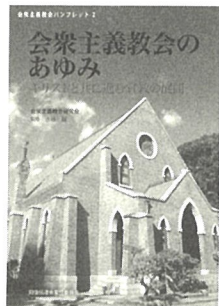
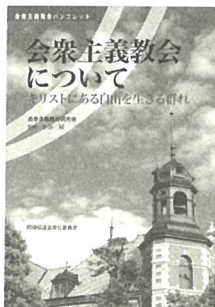
キリスト教に基づく良心教育を掲げて同志社は創立されたが、その創立者、新島襄は米国で牧師となつて日本に戻つた人であり、教育事業とともにキリスト教の宣教活動にも生涯をささげた人であつた。彼が残した「自由教育、自治教会、両者併行、国家万歳」という有名な言葉は、日本における教育事業とキリスト教会の建設事業が彼の活動の二つの焦点であつたことを示している。

同信伝道会という同志社を卒業して、牧師や社会事業に進んだ人々を中心にした組織がある。この会で、数年前より、新島襄と同志社のルーツである会衆主義キリスト教のアイデンティティを再度確認する作業が続いている。会衆主義は、イギリス・ピューリタン運動から現れ出て、さらにアメリカ・ニューヨークでも活発な活動を続けたプロテスタント・キリスト教の伝

統的な潮流の一つである。日本では、「日本組合基督教教会」と呼ばれ、同志社の卒業生を中心にして日本各地に多くの教会を建設していった。

この二冊のパンフレットは、この会衆主義の特質とその歴史を、一般読者に分かりやすく案内することを旨として作成されたものである。2008年夏に『会衆主義教会について—キリストにある自由を生きる群れ—』、昨年の夏には二冊目の『会衆主義教会のあゆみ—キリストと共に進む宣教の展開—』が刊行された。『会衆主義教会について』はその特質を、『会衆主義教会のあゆみ』はその歴史を振り返っている。

読者は、このパンフレットをおし、同志社のキリスト教の特質を知ることができるとともに、この特質が同志社の教育理念の中に見事に現れていることを経験するであろう。

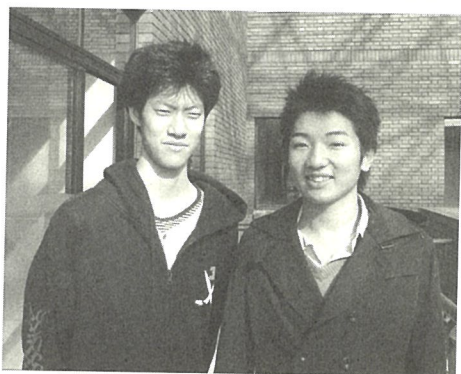


パンフレットについての問い合わせは、日本キリスト教団紫野教会大澤宣牧師まで。

TEL・075・493・1992
FAX・075・493・2002
それぞれ350円、400円

「スピード佐々木〈粗品〉」の活躍

国際中学校・高等学校教諭
生徒センター 角 有紀子



佐々木直人君(左)

吉田一世君(右)

佐々木 「いやしかし俺は電車内で電話

するマナー守れへんやつに注意できるような」

吉田 【さえぎるように】「さあやろう！」

佐々木 「やろう。がたんごとん。がたんごとん」

吉田 「あ、電話きた。はいもしもし」

佐々木 「あの一」

吉田 「ええ、なんて？」

佐々木 「あの一。すみません」

吉田 「世界で一番」

佐々木 「電車の中ですので」

吉田 「面積が広い国は」

佐々木 「できれば通話御遠慮していただいても」

吉田 「どこでしょう。A日本、B韓国」

佐々木 「いやミネオリアやつたんかい！なんでおまえ一丁前にテレフォンされとんねん。ほんで問題もまだ序盤やし」

これは「第2回漫才台本甲子園」で入選した高校3年生佐々木直人君の「カタカナ電車」の一部です。佐々木君は今回、なんと13本の台本を応募し、入選を果たしました。

彼は、同じ学年の吉田一世君と中学

1年生から「スピード」というコンビを組んで、これまで「ハイスクールマンザイ2009」決勝進出、「M・Iグランプリ2009」1回戦突破、「ハイスクールマンザイ2010」近畿地区セミアイナル進出を果たしています。また個人では「粗品」という名前で「学生芸人No.1決定戦2009」優勝、「ライブお笑いインターハイ2010」優勝、「ライブお笑い甲子園2010」優勝と輝かしい成績を残しています。沖繩研修旅行での普天間高校との交流会や、文化祭のショータイムの司会、後夜祭での漫才など学校内でも、彼らのパフォーマンスは私たちを楽しませてくれます。

今後のますますの活躍を期待しています。授業中にネタを考えるのだけはやめてほしいのですが。

ね、佐々木君!!